

試行・検証等のテーマ

多様性を認め合える意識の醸成と屋外の体験活動が眼に与える影響

背景・課題

○将来の変化を予測することが困難な時代を生きる子供たちに、新しい時代を築く力を身につけさせることが求められている。また、「目指す未来社会像 Society5.0」の実現に向けては、「多様性」「公正や個人の尊厳」「多様な幸せ(well-being)」の価値がSociety5.0の中核であることが示されている。令和4年度の「あかぎ無限大キャンプ」では、協働的な自然体験プログラムを実施することで参加者の基礎的な社会的能力のうち、「自己コントロール」が向上する可能性が示唆された。

○令和4年度の「あかぎ無限大キャンプ」において、1週間の集中的な屋外活動で脈絡膜厚が厚くなり、近視の進行を抑制する効果が示唆された。さらに、1か月後に実施した事後キャンプにおける検査でも脈絡膜厚の増加が維持されており、キャンプの効果が持続している可能性が示唆された。

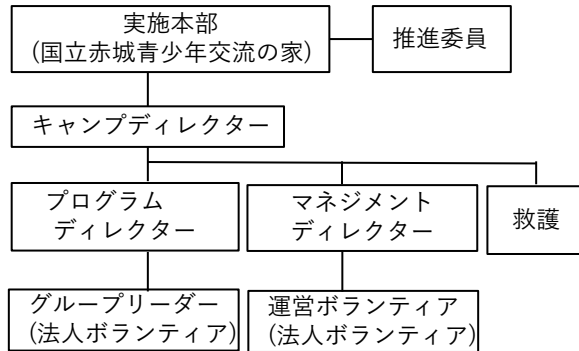
○本所において新しい時代を築く力を「多様性を認め合うこと」「健康の保持増進(近視進行の抑制)」と位置付けた。

事業のねらい

長期自然体験活動を集中的に行うことで、子供たちに「多様性を認め合うこと」「健康の保持増進(近視進行の抑制)」を目指す。

事業内容

<実施にかかる体制> ※図示も可



<テーマに基づいた試行、検証等の方法>

- 国立赤城青少年交流の家実施のふりかえりシートから見る参加者の変容
 - ・キャンプを4つのステージに分けて実施し、毎日「ふりかえり」の時間を設定
- 社会的能力の変容
 - ・事前、事後、1か月後のアンケート
- 屋外活動の眼への影響の調査
 - ・事前キャンプ、本キャンプ(2回)、事後キャンプでの眼の検査
- <活動の内容>
- 実施期間
 - ボランティア研修キャンプ(7月 1日～ 2日)
 - 事前キャンプ (7月 8日～ 9日)
 - 本キャンプ (8月13日～20日)
 - 事後キャンプ (9月16日～17日)
- 実施場所 : 国立赤城青少年交流の家
- 参加者属性・人数 : 小学校5・6年生、24名
- 具体的なプログラム内容: 登山、野外炊事、レクリエーション等



成果

- テーマに基づいた試行、検証等の評価・分析結果
 - ・本研究の結果、社会的能力のうち、「自己のコントロール」に有意な変容が認められた。このことから、本事業で実施したような組織キャンプ体験を多くした参加者は「自己のコントロール」が1か月後に向上する可能性が示唆された。
 - ・キャンプに参加し、脈絡膜厚が有意に厚くなったことは、1週間という短期間で近視の進行を抑制する効果が表れていることが示唆された。
- 計画通りいった点やうまくいかなかった点
 - ・ステージごとのねらいにせまるプログラム編成を行ったことで、参加者がねらいを意識しながらプログラムに参加することができた。
 - ・多様性を認め合うことにつながるプログラムとその効果を検討し、取り入れていくことが必要である。
- 保護者や参加者から寄せられた意見
 - ・本キャンプ1か月後の保護者アンケートより、「進んで家事に取り組むようになった。」「学校生活で自ら立候補する姿が見られた。」など肯定的な感想が見られた。

今後の展開

○次年度は「あかぎ無限大キャンプ」として3年目の実施となる。次年度も「目指す子供像」「ねらい」を継続し、「多様性を認め合える意識の醸成」と「近視の抑制(健康の保持増進)」を図るためのプログラム開発を進める。